

平成 29 年度 郡市医師会小児救急医療担当理事協議会

と き 平成 29 年 6 月 29 日 (木) 15:00 ~

ところ 山口県医師会 6 階会議室

[報告 : 常任理事 弘山 直滋]

開会挨拶

河村会長 本日はお集まりいただき、感謝申し上げます。また、県医療政策課からもご出席いただき、お礼申し上げます。

「小児救急医療電話相談 (#8000)」は、県内では 19 時から 23 時まで県医師会が実施しており、その後、翌 8 時まで民間業者が実施している。少しずつ救急医療としての形ができていくように思われる。一方、小児に限らず救急医療は住民・家族への啓発が重要である。これからもよろしく願いたい。

協議

1. 平成 28 年度小児救急関係事業報告について

弘山 県医師会で取りまとめた平成 27・28 年度の実績を示す。本事業は県から委託を受け、実施された郡市医師会へ県医師会から助成金として開催費用を出している。保護者に対し研修会を開催する「小児救急医療啓発事業」は、28 年度は 8 郡市で 11 回開催されている (27 年度は 9 郡市で 11 回)。また、小児科を専門としていない医師を対象に小児救急医療の研修を行っている「小児救急地域医師研修事業」は、5 郡市で 5 回開催された (同 11 郡市で 11 回)。

2. 平成 29 年度小児救急関係事業について

県医療政策課 今年度の 5 つの小児救急医療関係事業について説明をさせていただく。それぞれの事業の目的等はいずれも前年度から継続である。

まず、小児科医の地域偏在、大規模病院への集中などが進む中で、小児初期医療提供体制の確保を図るため、小児科を専門としない医師 (内科医

等) を対象に、小児患者に必要なプライマリケアの技能を習得するための研修を行う「小児救急地域医師研修事業」については、平成 29 年度も引き続き県医師会へ委託し、実施する。

続いて、乳幼児を持つ保護者に対し、小児の病気の知識等に関する講習会を開催し、保護者が小児の病気に対する理解を深めることによって、適切な受療行動を促し、不要不急の受診を軽減させ、病院勤務医の負担軽減や真に急を要する患者への医療の充実を図ることを目的に実施する「小児救急医療啓発事業」についても、小児救急地域医師研修事業と同様に県医師会へ委託し実施する。

複数の二次医療圏を対象として、休日及び夜間における入院治療を必要とする小児の重症救急患者の医療を確保する「小児救急医療拠点病院運営事業」については、これまでと同様に、済生会下関総合病院 (下関、長門医療圏)、総合病院山口赤十字病院 (山口、萩医療圏)、徳山中央病院 (周南、柳井医療圏)、岩国医療センター (岩国、柳井医療圏) の 4 機関について、医師、看護師等の人件費などの運営費を県から病院へ直接、補助する。

休日・夜間の一部時間帯において小児入院救急患者を受け入れる体制を整備する「小児救急医療確保対策事業」は、これまでと同様に周東総合病院 (柳井医療圏) と長門総合病院 (長門医療圏) で実施する。こちらの事業は病院に直接補助するのではなく、それぞれの市 (柳井市、長門市) へ県から補助する。

「小児救急医療電話相談事業」は、小児患者の保護者からの電話相談に相談員 (看護師及び小児科医) が応対することで、保護者の不安解消や適切な受診促進に寄与することを目的としている。

相談受付時間は 19 時から翌朝 8 時までであり、19 時から 23 時までは県医師会へ委託し、23 時から翌朝 8 時までは民間業者へ委託している。相談件数は年々増加し、平成 27 年度以降 1 万件を超えている。28 年度は全体で 10,463 件の相談があり、1 月平均で 872 件、1 日平均で 28.7 件の相談があった。

弘山 ただいま県から平成 29 年度の小児救急医療関係事業についてご説明いただいた。ほとんど前年度並みの予算を確保していただいている。

宇部市 昨年もお聞きしたが、小児救急医療電話相談事業について、民間業者への委託額を教えてください。

県医療政策課 民間業者への委託額は 28 年度が 492 万円、29 年度は 714 万円である。

宇部市 金額に差があるが、何か理由があるか。

県医療政策課 金額は一般競争入札により業者が落札した価格である。いずれも県の設定する価格内であったが、28 年度は落札価格が低かったので調査を行っている。

宇部市 民間業者は山口県分の回線を持っているというわけではなく、複数回線の中で山口県から

の電話を取ると聞いている。県医師会分もだが、民間業者の時間帯でもつながりにくさが言われている。委託費増加によって複数回線での対応にするのではなく、従前と同じ対応か。

県医療政策課 従前と同じで、民間業者で山口県の回線を 1 回線用意していただき、全国 11 か所の小児救急電話相談を同じコールセンターで受けている。電話がかかった時点で山口県からの電話というのが分かる。相談件数が多い時間と少ない時間があり、時間帯に応じて職員配置を行っているという聞いている。

宇部市 19 時から 23 時までの電話相談では、相談員が絶え間なく電話をとっている時間帯がある。11 回線で 11 人以下では 1 つの電話が鳴り続ける状態にあるのではないかと改善を求めたい。

弘山 説明のあった小児救急医療啓発事業、小児救急地域医師研修事業について、各郡市医師会へ事前に平成 29 年度の開催予定を調査させていただいた。小児救急医療啓発事業は 13 郡市医師会、小児救急地域医師研修事業は 9 郡市医師会で実施予定とのご回答をいただいている。実施後は県医師会へご報告いただきたい。各郡市医師会で研修会等を積極的に開催していただくようお願いする。

出席者

郡市担当理事

玖 珂 川田 礼治
熊 毛 郡 廣島 淳
吉 南 田邊 亮
厚 狭 郡 吉武 和夫
宇 部 市 金子 淳子
萩 市 岩谷 一
徳 山 大城 研二
防 府 村田 敦

下 松 井上 保
岩 国 市 藤本 誠
小 野 田 伊藤 忍
光 市 松島 寛 (代理)
長 門 市 清水 達朗
美 祢 市 横山 幸代

県健康福祉部医療政策課

主 査 有富 絹代

県医師会

会 長 河村 康明
副 会 長 濱本 史明
常任理事 弘山 直滋
理 事 香田 和宏
理 事 山下 哲男

3. その他

弘山 今年度の小児救急医療電話相談事業の研修会を 8 月 20 日（日）に開催する。今年度は大阪小児科医会理事・NPO 法人小児救急医療サポートネットワーク代表理事の福井聖子 先生をお招きし研修をしていただく。

宇部市 以前、何度電話をかけても繋がらないという苦情があった。県でクレームの窓口をお持ちかと思うが、それ以降そういったクレームはないか。時々、電話をかけたが繋がらなかったと聞いている。昨年度に調査したが実態がつかめなかった。このような情報を共有したいと思っている。

県医療政策課 4 月から 2 件クレームが入っている。1 件は民間業者の時間帯であった。もう 1 件はメールでの苦情のため、時間帯がはっきりしなかった。民間業者の時間帯でのクレームについて確認したところ、当日は急に気温が上がり、熱中症などの相談が多く入った日であった。話し中で繋がらなかったのか詳細は不明である。繋がりにくさの問題については、民間業者でも対応を検討してもらっている。

山下理事 11 回線を同じ民間業者が持っているが、他県も 1 回線当たり同程度の委託費なのか。山口県独自で民間業者と契約しており、他県については分からないのか。

県医療政策課 県ごとに金額が違っていると思われる。

玖珂 金額の根拠は何か。

県医療政策課 概ね人件費であり、その他、回線使用料や保険料などである。

弘山 29 年度も 28 年度と基本的には同じように小児救急医療関係事業を行っていく。郡市医師会担当理事の先生方にもいろいろな場面での協力をお願いすることになると思われるので、どうぞご協力をよろしくお願ひしたい。それでは、これで本日の協議会を終了する。

表紙写真の募集

山口県医師会報の表紙を飾る写真を随時募集しております。

アナログ写真、デジタル写真を問いません。

ぜひ下記までご連絡ください。

ただし、山口県医師会会員撮影のものに限ります。

〒753-0814 山口市吉敷下東3-1-1 山口県医師会広報・情報課

E-mail : kaihou@yamaguchi.med.or.jp